



徳山の盆踊

夏の夜を彩る伝統芸能

徳山古典芸能保存会と地元の子どもたち等による「徳山の盆踊」が、8月15日（木）に徳山地区の浅間神社で奉納されました。

「徳山の盆踊」は古歌舞伎踊りの初期の仕組みを伝承するもので、動物仮装の風流が添えられているなど地域的特色が取り入れられています。昭和62年に国の重要無形民俗文化財に指定され、令和4年11月には、全国の風流踊の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

出立式を終えて徳山コミュニティ防災センターを出発した一行は、愛宕地蔵堂で「鹿ん舞」「ヒーヤイ」を奉納した後、浅間神社へ移動。境内に設けられた舞台上で女子学生によるヒーヤイト、成人男性による狂言が、舞台の周りでは男子学生による鹿ん舞が交互に演じられました。

また、会場には飲食ブースが設けられ、多くの来場者で賑わいました。

あやばう 綾棒を綺麗に回して舞うために

今年から、「徳山の盆踊」に参加し「鹿ん舞」を演じました。2年ほど前、旧中川根第一小学校に通っていた頃に徳山の盆踊を体験したことがあり、なんとなくイメージはついていましたが、練習で久しぶりに綾棒を回したので初めは難しかったです。

本番では、綾棒を回す際にできるだけ引っかからないように、綺麗に回せるように意識して取り組みました。大勢の観客の前でとても緊張しましたが、練習通りに、最後までやりきることができました。



ミツ星学園 6年生 なかざわ ともひ 智陽さん(徳山区)

今年最後の盆踊を楽しく演じるために

「徳山の盆踊」に演者として出演するのも今年で最後の年となりました。

今年は、「鹿ん舞」の筆頭（牡鹿）として出演が決まり、とても緊張しましたが、高く飛ぶことと声を出すことを意識して練習を続けてきました。また、下級生たちは、学校の授業で棒回しなどを経験したことがある子が多く、教えたことはすぐに覚えてくれたので、全員で協力し楽しく練習をすることができました。本番では、練習の成果を出し切り楽しく取り組むことができました。



ミツ星学園 9年生 はせがわ あらた 新汰さん(徳山区)

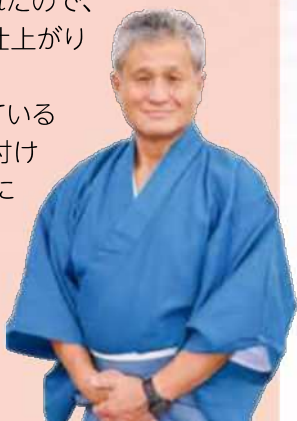
～ interview ～

伝統を守り 次の世代への継承を願って

「徳山の盆踊」は小唄にあわせて踊る「ヒーヤイ」と「狂言」、鹿に扮した若者が舞う「鹿ん舞」を交互に演じるのが特徴です。特に「鹿ん舞」はそのユーモラスでユニークな様子から人気があります。昔、焼畑農業を行っていた時代に、山から出てきて畑を荒らす鹿を村人が追い払う様子を表現した踊りで、五穀豊穡を願うと共に白い鹿に象徴される山の神を崇め敬う意味も込められています。現在でいう、自然との共生を願うという意味です。

演者の子どもたちは、指導者の言葉をしっかり聞いて、真面目にそして元気よく練習に取り組んでくれたので、全体的にとっても良い仕上がりになりました。

お祭りを大事にしている大人たちを目に焼き付けて、20年後30年後になった時、同じように自分たちの子どもに継承し、お祭りを存続させていってほしいと願っています。



徳山古典芸能保存会長 森 博士さん(徳山区)



1_ 愛宕地蔵堂で奉納された「鹿ん舞」。2_ 浅間神社へ向かう一行。3_ 華麗に踊る「ヒーヤイ」。4_ 成人男性による「狂言」。5_ 小さな子どもたちも鹿ん舞にあわせて一緒に舞う。6_ 会場を清める「露払い」。7_ 来場者を魅了した仕掛け花火。8_ 来場者で賑わう飲食ブース。

いつもどおりに～自信を持って臨む本番～

小学校6年生の頃から「ヒーヤイ」に参加し、今年で3年目を迎えました。「ヒーヤイ」では、扇子の位置や膝の高さを意識しながら、お囃子に合わせて歩くスピードを調整することに気をつけて練習してきました。

また、下級生の指導では、強い言葉で注意するのではなく、優しい言葉をかけながら横に寄り添って一緒に踊ってあげることを意識しました。

本番は緊張や心配もなく、いつも通りに自信を持って取り組むことができました。



三ツ星学園 8年生 上野 真侑華さん(徳山区)

手と足の動きを合わせることを意識して

今年から「ヒーヤイ」に参加しました。初めてだったので、特に足の動きや膝の高さを意識しながら練習することが難しかったです。

練習では、手と足の動きを一緒に合わせることを中心に、指導者や上級生たちに教えてもらいました。初めの頃は難しくてできなかったけど、上級生が優しく教えてくれたので、楽しく練習を続けることができました。

本番は、たくさんの観客に緊張したけど、自信を持って取り組むことができました。



三ツ星学園 5年生 長谷川 天璃さん(徳山区)